

## 2008年12月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

12月27日

全員リレーで全体練習を締め



完全閉寮のため、全部員による練習は今日が最後。朝から通常通りのメニューが行われたが、最後の坂道ダッシュは里井コーチの提案により、全部員によるリレーに切り替えられた。一人400メートル×8人のリレーが4本。ポイントが与えられ、下位2チームには罰ゲームありというお年玉付きであった。朝から十分なトレーニングを積んだ後であり、「お尻の筋肉がちぎれそう」と言いながら、ゴール後に倒れ込む部員の姿も。

通学可能な部員は明日以降も練習を続け、最終は30日。年明けは通学部員は4日から練習を再開し、全体は5日からとなる。

12月21日

都大路を激走する女子駅伝に熱い声援



年度当初から年間行事予定に組み込まれるほどの恒例となった全国高校女子駅伝が行われ、今年も部員が各ポイントから声援を送った。昨年は全国優勝した陸上部の凱旋帰校を迎えたことで、今年の夏の京都大会準優勝の時は陸上部の駅伝メンバーが学校で迎えてくれた。1年生は多くの部員が烏丸鞍馬口で、2年生は北野白梅町から声援を送った。

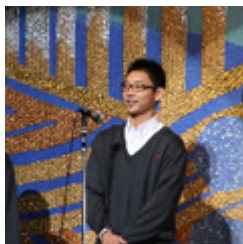
この日の練習は午後からとなるのが近年の野球部の動きであり、目の前のを通過した陸上部員に大声で声援した後は、グラウンドへ向かって練習した。

## 2008年11月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

11月16日

全国大会で敢闘賞を受賞!! 片野田義人



週末に行われた全国高校生フランス語暗唱大会で、硬式野球部3年の片野田義人が敢闘賞を受賞した。全国でフランス語を学ぶ高校生代表30名が参加したこの大会では本校から4名が参加し、敢闘賞は全体で4位に相当する立派な成績であった。選手権京都大会では応援団長として下級生を牽引し、学園祭などでは総合司会や幕間を担当するなど人前での堂々としたパフォーマンスは誰もが認めるところ。大学への進学を控えているが、自身は立命館アジア太平洋大学への進学を熱望しており、語学力にはますます磨きがかかりそうだ。

※写真は今年度の学園祭の様子。本校HPより

11月9日

今シーズンのオープン戦も残りわずかに



新チームスタート当日から始まった練習試合も11月中旬を迎え、いよいよ残りわずかとなってきた。連盟規約では今月いっぱいまで試合は組めるが、来週半ばから後期中間テスト1週間前に突入するため、来週の日曜日がラストゲームとなる。ダブルヘッダーでなるべく選手が偏らないように、多くの部員が試合に参加できるように采配されたが、「春にはコンバートも含めて大幅にメンバーは入れ替わるはず。というよりそうでなければチーム力は向上していない」という卯瀧先生だが、どうも「俺は安泰」と錯覚している部員もあり、若い芽にとっては充分チャンスありである。

11月3日

A、Bチームとも3戦3勝で予選リーグ終了



26日から行われた洛南交流試合は、この週末からの連休で予選リーグの全日程を終了。A（2年生チーム）、B（1年生チーム）ともに3戦3勝の結果であった。特にBチームは1点差の試合が2試合あったが、接戦を経験できたことは今後の大きな糧となる。

昨年から決勝トーナメントは春休み中に太陽が丘球場で行われることになっており、これで立命館宇治は昨年に続き1～4位の順位トーナメントに回ることになった。

※Bチームの成績は順位に加わらない。順位トーナメントはA、B合体の1チームで参加。

11月1日

学園祭企画 スピードガンで球速測定



1日に行われた学園祭学校企画で、夏の選手権大会のお礼企画としてスピードガンによる球速測定を行った。夏の準々決勝で141kmを出した急造投手・中野をもじり、題して『翔太に挑戦』。硬式ではなく軟式ボールを使用した。下は小学生から上はナイスミドルまで、多くの人が挑戦した。最高は近江高校野球部OBという一般入場者の146km。小学生は80km平均で、小6のある小学生に「90km以上出たら、入試に合格するかもよ」と石川部長が冗談で声をかけると、「大丈夫です。球速は86でしたが偏差値が65あるので」と返されました（お見事パチパチ）。

## 2008年10月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

10月23日

洛南交流試合。Aは2年生、Bは1年生



今週末から始まる洛南交流試合のメンバー編成が決まった。Aチームは全員2年生、Bチームは全員1年生である。AチームがレギュラーメンバーでBチームがレギュラー外という編成ではない。卯瀧先生は「もともと秋季大会が終わってから秋の大会のメンバーは白紙状態に戻し、練習試合では色々と試している。折角2チーム参加できる機会をいただいたのだから、この編成でいきたい。当然学年によっては手薄になるポジションが出てくるが、そこをどう乗り切るか楽しみだ」と語る。勿論、A・Bチームとも3試合全勝を目指す。

10月12日

シーズン終盤のチャンスをもものにできるか



約1ヶ月続いた秋季大会が終了し、メンバーは白紙状態に戻った。練習も基本が繰り替えし行われているが、卯瀧先生はこの週末3日間6試合は「けが人以外は全員にチャンス」と明言し、勝敗を度返しして試合を行った。月末から始まる洛南交流試合でもA・Bチームの参加が決まり、今までより出番が増える部員は出てきそう。ただし、これも来春の布石であり、かつてない大量の新入部員を迎えそうな春には同様のチャンスが巡ってくるかどうかわからない。今、このチャンスをもものに是非とも結果を出してもらいたい。

10月10日

立命館慶祥部長が京都で研修



立命館慶祥高等学校の硬式野球部長・滝本圭史先生がこの週末の連休を利用して野球研修に訪れた。慶祥の川崎昭治現校長が立命館宇治の前校長という縁もあり、「中学生のリクルートや卯瀧監督の指導指針など全てを学ばせたい」と急遽今回の出張は決まった。自身、慶祥の野球部OBで、教員になって日が浅いが意欲は旺盛。この日の練習試合ではユニフォームに着替え、試合前のノックを手伝い、試合中は卯瀧先生の横のへばりついてメモをとった。11日は大学野球部を訪れて挨拶し、大学グラウンドで練習する立

命館高校を見学し、12日は甲子園を見学して北海道に帰る予定だ。

10月1日

附属中学野球部員が一日体験入部



立命館宇治中学の野球部員9名が高校硬式野球部の練習に一日体験入部した。この日は前後期の境目となる秋休み。附属中学からの入部者は現3年生が3名、2年生が1名、1年生が4名であるが、今年は夏の中学野球で宇治市で優勝し、山城大会にも進出したためか、過去最高の入部希望者である。推薦B（指定スポーツ推薦）の数名に加え、今年は推薦A（学術学芸スポーツ推薦）でもこの時期にしては多い11名の受験生が見込まれており、来年度の新入部員は30名に迫る勢いである。9名はこの日フリーバッティングとノックを先輩たちに混じって行った。

平成20年度

## 秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

9月23日（祝） 2回戦 対京都両洋 （福知山球場）

### 中盤以降、防戦一方の完敗!!

○京 都 両 洋 000 022 101=6

●立 命 館 宇 治 000 000 000=0

【京】釣井-山本【立】阪口、中野-小嵯

▼2塁打 今竹、菅、島岡、村松大（京）



序盤は互角の展開ながら、中盤のわずかな乱れから終盤には一方的な展開となり完敗した。きっかけは5回。先頭打者に不用意に投じた初球をあわやバックスクリーンかと思われる大飛球で2塁打とされると、続く送りバントをねらう打者に四球を与え、先発・阪口は完全にリズムを崩した。送りバントで1死2・3塁とされると、初球に暴投で先制点を献上し、8番打者にもタイムリーを打たれて追加点を奪われた。立ち上がりから4回まではほぼ完璧な投球内容だっただけに、2安打3四球で2点を奪われたこの回の投球は悔やまれた。リリーフした中野も打者を追い込んでからの制球が甘く、毎回のように得点を許す結果となった。

攻撃は京都両洋エースの釣井投手のストレートと高速スライダーに翻弄され、8安打を放ったが新チーム以降初めて完封された。

1次戦終了後の先週末の練習試合で投手陣が好投し、市川（兵庫）北大津（滋賀）に連勝し、打線も昇り調子であったが、好調の背後にある落とし穴に見事はまってしまった。

※写真は阪口をリリーフした中野（1年）

1次戦

9月7日（日） 決勝戦 対立命館 （立命館宇治）

### 三遊間で4失策も薄氷の逃げ切り

●立 命 館 110 201 010=6

○立 命 館 宇 治 200 401 00x=7x

【立】中本、三好-清水【宇】阪口-小嵯

▼3塁打 中村、基村（立）▼2塁打 中村、松川

（立）西川（宇）

立命館宇治は内野陣が力不足を露呈し、余計な失点で追いつ追われつの展開になってしまった。ゴロ処理にバランスを崩し、ボールを弾き、ライナーは捕球できず、失点を重ねた。





打線は2点を先行された4回、1死満塁から4番・小  
 嵯の左前タイムリーで同点に追いつくと、続く5番・  
 田口の中前打で勝ち越し、なおも重盗を仕掛けて加  
 点した。1点差に詰め寄られた6回には1死2塁から6  
 番・西川のタイムリーで2点差とした。

阪口は序盤は制球に苦しんだものの、中盤以降は  
 粘りの投球を見せたが、立命館は失投を逃さなかった。

内容的には圧倒され、「勝利」という結果は得られたが、自らのミスに  
 悔しさを表さず、向上の姿勢を示さない若い内野陣に卯瀧先生から厳しい  
 言葉が浴びせられ、日が暮れるまで守備練習が続けられた。

※写真は同点タイムリーを放った小嵯裕之（1年）

8月24日（日） 2回戦 対西城陽 （立命館宇治）

## 山口、先制の2点本塁打

●西城陽 000 000 000=0

○立命館宇治 202 000 00x=4x

【西】安在、山田、古市谷-宇野【立】阪口-小嵯

▼本塁打 山口（立）▼2塁打 宇野（西）



立命館宇治は初回、死球の走者を1塁に置き、3  
 番・山口が左中間に豪快に放り込み、2点を先制。3  
 回には四球と犠打失策から得たチャンスに2番・岩本  
 がしぶとく左前に落として加点した。しかし4回以  
 降、毎回のようにスコアリングポジションに走者を  
 置きながら、追加点は奪えなかった。

昨日に続いて先発した阪口は変化球の切れが鋭く、3塁を一度も踏ませ  
 ず、2塁に走者を置いたのも二度と西城陽の打線を封じ込めた。

※写真は2試合連続完投の阪口尚弥（2年）

8月23日（土） 1回戦 対嵯峨野 （立命館宇治）

## 中盤以降、ようやく突き放し

●嵯峨野 001 000 000=1

○立命館宇治 100 012 01x=5x

【嵯】阪本-金澤【立】阪口-小嵯

▼2塁打 文田（嵯）



初回到相手失策から得た1死3塁のチャンスに、3  
 番・山口が右翼へ犠飛を上げて先制した立命館宇治  
 は、その後は低めにうまく変化球を集める嵯峨野工  
 ースの阪本に翻弄され、結局6回1死まで無安打に封  
 じ込められた。6回1死から5番・田口が内野安打でよ  
 うやくチーム初安打を記録すると、1死1・2塁のチャ

ンスから3連打し、ようやく勝ち越した。

先発した阪口は外野手のミスから3回に同点に追いつかれたが、それ以外は3塁を踏ませぬ投球で完投した。

試合後には初の公式戦とはいえ、やるべき役割が試合の中で果たせないことに対してミーティングと反復練習が行われた。

※写真は試合後に卯瀧先生からの話を聞く選手たち

## 1次戦メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	阪口 尚弥	2	高 南 (大阪)	ヤング・泉大津	右	右
2	捕	小寄 裕之	1	下 京	少年野球・西京ビッグスターズ	右	右
3	一	清水 祐太	1	今 津 (大阪)	ボーイズ・八尾フレンド	右	右
4	二	森 飛鳥	2	久 居 (三重)	シニア・津	右	右
5	三	西川進士郎	1	佐井寺 (大阪)	ボーイズ・吹田千里山イーグルス	右	右
6	遊	岩本 翼	1	高 野	中学野球部	右	左
7	左	田口 真基	1	久御山	少年野球・西京ビッグスターズ	右	左
8	中	山口 拓也	2	浅香山 (大阪)	ボーイズ・ジュニアホークス	右	右
9	右	藤尾祥太郎	2	朝 来 (兵庫)	ヤング・但馬BBC	右	左
10	投	服部 憲悟	1	模 島	ボーイズ・南山城ドラゴンズ	右	左
11	投	中野 翔悟	1	京教大附桃山	ボーイズ・オール枚方	右	右
12	投	田村 知一	2	市 岡 (大阪)	シニア・大正	右	右
13	捕	今西晃次朗	2	立命館宇治	中学野球部	右	右
14	内	木津 雄貴	2	培 良	少年野球・田辺東	右	右
15	内	小林 和路	2	精華西	シニア・奈良	右	右
16	内	鈴木 雄士	2	虎 姫	ボーイズ・湖北	右	左
17	外	藤井 直也	2	桜 丘 (大阪)	ボーイズ・交野	右	右
18	内	山下進太郎	2	垂 水 (兵庫)	ボーイズ・兵庫神戸	右	左



## 2008年9月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

### 平成20年度 秋季京都府高等学校野球大会 特集

9月19日

京都府優秀選手に中野翔太前主将



京都府高等学校野球連盟は秋・春・夏の公式戦で顕著な活躍をした加盟各校の部員を対象にする「京都府優秀選手賞」に、前主将の中野翔太を選出した。夏の大会直前に骨折したエースに代わり、急遽マウンドをに上がり、2回戦から決勝戦まで獅子奮迅の投球を披露し、チームを6年ぶりの準優勝に導いた。決勝戦では序盤に打ち込まれたが、中後半は再び奮起し、関係者からもそのひたむきさに「思わず目頭が熱くなった」と評され、「立宇治から選ばれるなら中野君しかいない」と言われていた。立命館宇治の選手が選ばれるのは3年ぶり3度目である。

9月18日

進路企画で一般生徒を前に講演



本日は高校2～3年生を対象にした進路企画『アカデミックデイズ』。大学からは学部学科別に先輩が訪れ、各教室で後輩たちに学部学科の魅力を話し、全体講演では硬式野球部監督の卯瀧先生が『夢を追って32年』と題して、2～3年生に60分講演を2回行った。キャリア教育担当の先生がこの企画が始まった4月段階で、全体講演は卯瀧先生にと白羽の矢が当たっていたもので、卯瀧先生も「部員の前では喋れても、一般生徒の前ではなあ…。話しが下手やしなあ。どんな話しをしたらええのかなあ」と、最近はネタ探しもしていた。勿論、部員は緊張の面持ちでグラウンドでは聞けない監督の話に熱心に耳を傾けた。

9月16日

落ち着いてました。初の抽選会



秋季大会1次戦の抽選は2年を代表して外村現主務が抽選会に挑んだため、山口主将はこの日の2次戦抽選会が初挑戦。会場外では夏の決勝戦で戦った福知山成美の主将と談笑するなど落ち着いたもの。順序抽選でも本抽選でも慌てることなくくじを引き、堂々と番号と校名を読み上げた。初戦は23日と決まったが、対戦相手の京都両洋と京都学園は20日にじっくり観察できる。何よりもこの週末も市川

(兵庫県) 北大津 (滋賀県) に連勝した自信の表れか、「まずまずの結果でしたね」と会場を後にした。

9月11日

最近多いんですよ。試合の問い合わせ



夏休みに入ってから学校に練習試合の問い合わせが増えてきている。夏休み中は事務室に常に野球部の練習試合の最新情報を流して対応してもらってきたが、夏休みが終わってからも問い合わせが続いている。保護者やOBではなく、1塁側の土手から応援して下さる一般の方々だが、馴染みの方には予定表を配布しているが、多くの方が「練習試合があるのかないのか、行ってみないとわからない」というもの。そこでちょっと小さいが、1塁側フェンスに外向けに試合予定表のホワイトボードを掲げてみた。お役に立てればいいのだが...

9月10日

決断!? 大量コンバート敢行へ...



1次戦ブロック決勝戦では1点差で逃げ切ったものの、三遊間の4失策を始め、記録には表れないディフェンスのミスで相手に不用意に得点を与えてしまった。新チーム以降「まずはディフェンスから」と意識し、それは卯瀧野球の根幹でもあるだけに、チームに与えた衝撃は大きい。来週後半から始まる2次戦に間に合わせるために、手をこまねいているわけにはいかない。かといって試合前のノックで各ポジションに一人ずつしか入れられない層の薄さでは替わる選手はなかなか出てこない。そこで今週から試されているのが内野陣の大量コンバート。海外研修旅行から戻った3年生もノックやアドバイスにグラウンドに駆けつけてくれている。

## 2008年8月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

第90回選手権記念京都大会をスライド写真で振り返る

夏草や兵どもが夢の跡....

(構成作:部長・石川、写真:副部長・寺本)

第90回全国高等学校野球選手権記念京都大会 特集

8月16日

広島県遠征で強豪相手に勝ち越し



昨年から実施されている広島県遠征が実施された。最終的には準優勝した昨年のチームもこの時期には投手陣が壊滅状態で、大きく負け越した。今年はさらに強豪校との試合が組まれており、その成果は大きく秋季大会につながる。結果は完勝ではなかったが、関西（岡山県）金光大阪（大阪府）山陽、広陵（広島県）に勝ち、4勝2敗2分であった。



また宿舎は今年度は広島市内の老舗旅館。かつては読売ジャイアンツが定宿にしていた地元の人なら必ず知るころ。朝夕の食事品数も豊富で、選手たちの疲れた身体を癒してくれた。また今回は市内で一番の繁華街にあり洗濯以外は外出禁止となったため、夕食後は部屋で持参した夏休みの宿題をこなす部員の姿が多く見られた。

秋季大会まであと1週間である。

8月9日

24試合で練習試合折り返し点を通過



1年秋から試合経験豊富な現3年生が大量に抜け、まさにゼロからのスタートとなった新チームは、経験不足を補うために連日練習試合を実施し、この日の試合で数字的にはちょうど折り返し点となった。決勝戦翌日の試合から始まり、7月中は京都府内のチームを中心に12試合行い、8月に入って他府県のチームを相手に12試合。現在20勝2敗2分であるが、打ち合いの末の逃げ切り勝利が多く、失点はかなり多い。13日からの広島遠征を含め、秋季大会までの残り2週間でチームがいかにか成長するか。

8月8日

3年生10名が大学硬式野球部に参加



決勝戦後に「大学でも野球を続ける」と名乗りを上げた10名が、この日大学の硬式野球部練習に参加した。近年はスポーツ推薦で入学しても大学では準硬式を希望する部員もいたが、今年度は過去最多の人数となった。大学でも中心選手として活躍する先輩が励みとなっており、この日は午前中のみであったが、大学のメンバーに混じってのフリーバッティングとメンバー外の先輩たちに混じってシートノックを受けた。木製バットで打つ経験は少ないが、パワーはないもののセンターを中心に鋭い打球をはじき返し、決勝戦以降も連日鍛えてきた成果を出した。

8月3日

附属中学出身者が副主将に!! 今西晃次郎



決勝戦の夕刻から本格的に始動した新チームは山口拓也主将が即指名されたが、副主将と主務は空位のままであった。新チーム以降の各部員の動きをつぶさに観察していた卯瀧先生は「野球に取り組む前向きな姿勢やベンチでの元気の良さ」から、副主将に今西（写真）を抜擢した。附属中学野球部出身であり、勿論スポーツ推薦で入学したわけでもない彼が選手スタッフに指名されたことの意義は大きく、その役割をしっかりと果たして欲しい。また選手兼任主務には外村望が指名され、これから部員は山口主将を中心にこの3名でマネジメントされる。

7月22日（火）<大会第16日> 決勝 対福知山成美 （西京極球場第1試合）

## 中盤以降、互角の展開も準優勝

●立命館宇治 000 100 010=2  
○福知山成美 502 100 00X=8X

【立】中野翔-大崎【福】植田-福本  
▼2塁打 椎葉、植田（福）梅本（立）

### 【試合経過】

今大会チーム打率が.450を越える強力打線の福知山成美は、連投で疲労の色の濃い立命館宇治の中野翔に立ち上がりから襲いかかり、初回には5安打で5点、3回にも3安打で2点を追加した。

序盤の大量失点に立命館宇治も懸命の反撃に転じるが連打に恵まれず、4回に7番・梅本の2塁打で1点、8回には5番・岡島の犠飛でさらに1点を返すにとどまった。

もはや気力のみでの投球になった中野翔は4回以降の5イニングを1安打に押さえ、打線はトータルで福知山成美の9に対し8安打を放ったが、序盤の大量失点は勝負を決した。

立命館宇治は大会直前にエースが骨折というアクシデントに見舞われながら6年ぶりに決勝戦に進出し、準優勝という栄冠を勝ち取った。



いよいよ決勝戦。本日も全校応援です



初回、先頭の金子がさい先良く右前打を放つ



連投の披露の濃い中野翔に成美打線は容赦なく襲いかかる



2回5番・市川が中前打で出塁



4回には7番・梅本が左翼線2塁打で1点を返した



最終回も諦めず、8番・大崎が左前打で出塁



# 渾身の逆転劇!! 懸命の逃げ切り

●龍谷大平安 001 011 001=4

○立命館宇治 000 020 30X=5X

【龍】安田、川口-児玉【立】中野翔-大崎

▼本塁打 梅本、金子(立) ▼2塁打 鄭(立)

## 【試合経過】

1点を追う立命館宇治は7回、1死から1番・金子が左翼フェンス直撃のランニング本塁打を放ち同点に追いつくと、続く2番・中野翔が1塁内野安打、3番・鄭が左翼線2塁打、4番・山口が三遊間、5番・市川が中前打、6番・岡島が右前打と6連打で3点を入れ逆転した。

守りのわずかな乱れから今大会初の追いかける展開となったが、5回には7番・梅本が右翼席に本塁打で反撃ののろしをあげ、何とか食らいついて後半のチャンスを待った。

中野翔は今大会最多の7安打を浴び、四死球9であったが、4失点(自責点2)で踏ん張った。

立命館宇治は昨秋10月1日に延長14回7-8で破れた龍谷大平安にリベンジし、6年ぶり6度目の決勝戦に挑み、春の近畿王者・福知山成美の胸を借りる。



5回、梅本が右翼席にソロ本塁打を放ち、反撃ののろしが上がる

終盤に望みをつなぎ、徹底的に揺さぶりをかけた

7回1死から金子が左翼フェンス直撃のランニング本塁打



3番・鄭も左翼線に貴重な2塁打を放った

スタンドで応援する控え部員たち

中野翔は最終回、ピンチを迎えながらも渾身の投球

7月19日(土) <大会第13日> 準々決勝 対北嵯峨 (西京極球場第1試合)

# 白熱の投手戦!! 中野翔、2安打完封

○立命館宇治 000 000 004=4

●北 嵯 峨 000 000 000=0

【立】中野翔-大崎【北】内田-四方

▼3塁打 市川(立) ▼2塁打 梅本(立)

### 【試合経過】

北嵯峨のエース内田の力のあるストレートと切れの良い変化球に8回までゼロ更新を続けていた立命館宇治は、9回に3番・鄭が相手失策で出塁すると、続く4番・山口の送りバントがまたも相手失策を誘い、無死1・2塁の絶好のチャンスを迎えた。続く5番・岡島の送りバントが三封され、チャンスがついえたかに思えたが、6番・市川が左中間を破る3塁打を放ち、ようやく先制した。続く7番・梅本が追い込まれながらも鮮やかに三遊間を破り、3点目を入れると、相手守備の乱れから一気に梅本がホームインし、勝負を決した。

序盤3回まで毎回無死の走者を出し、得点圏に走者を進めながら、4～8回まで毎回三者凡退で苦しい展開であった。

先発した中野翔はこの日も急造投手とは思えぬ投球を展開。被安打2、四死球1の快投で、3塁を踏ませたのは3回の一度だけであった。



序盤3回の拙攻が中盤から後半への苦しい展開に



9回先頭の鄭が相手内野失策で出塁



続く山口の送りバントも相手失策を誘った



岡島の送りバント失敗でチャンスは潰れたかに思えたが...



6番・市川が鮮やかに左中間を破り、均衡を破った。



中野翔は被安打3、1四球の完封

7月15日(火) <大会第9日> 4回戦 対日吉ヶ丘 (西京極球場第4試合)

## 打線ふるわずも堅守で勝ち上がり!!

●日吉ヶ丘 000 000 000=0

○立命館宇治 000 112 11X =6X

【日】北野、木村亘-今田【立】中野翔-大崎

▼3塁打 鄭(立) ▼2塁打 岡島、大崎(立)

### 【試合経過】

日吉ヶ丘のエース北野のオーバーハンドやサイドハンド織り交ぜた投法に全く序盤にタイミングの合わなかった立命館宇治は、4回に3番・鄭の幸運な3塁打と5番・岡島の犠飛でようやく先制すると、5回にはまたも1死3塁から鄭の犠飛で2点目を入れた。6回には岡島の左越え2塁打と6番・梅本の四球(代走寺川)を塁において、8番・大崎が3塁線を破るタイムリー2塁打でようやく「らしさ」を発揮した。



打線はふるわなかったが、先発・中野翔は被安打3、与四球1、10奪三振と今大会最高の投球を見せ、バックも1失策で応えた。



4回、3番・鄭が右翼線3塁打  
で出塁



1死後、5番・岡島がセンター  
に犠牲フライを打ち上げた



6回には1死1・3塁から8番・  
大崎がタイムリー2点打



代走から途中出場の寺川も持  
ち味を発揮した



平常授業のため、この日は控  
え部員のための応援



中野翔は被安打3、10奪三振の  
完封

7月13日（日）<大会第7日> 3回戦 対京都翔英 （西京極球場第3試合）

## 復活の市川、挨拶代わりに先制3塁打!!

● 京都翔英 000 02 =2

○ 立命館宇治 516 0X =14X （5回コールド）

【京】濱田一・内田靖・中村・佐藤-前田【立】中野翔・服部-大崎

▼3塁打 市川、山口（立）▼2塁打 鄭、大崎、梅本（立）前田（京）

### 【試合経過】

立命館宇治はチャンスを潰したかに思えた2死から3番・鄭が左翼線2塁打で出塁すると、連続四死球で満塁とし、6番・市川が左翼越えに豪快に3塁打を放ち、3点を先制した。市川は春季大会直前に足を骨折し欠場。昨秋以来の公式戦であった。続く梅本が三遊間を破って4点目を追加すると、初戦ではノーヒットだった8番・大崎が左中間を割って5点目を迎え入れた。

2回には3安打で1点。3回には長短5安打を集中して早々と勝負を決めた。

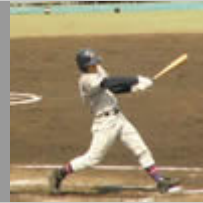
初戦に続いて先発した中野翔は3回を無安打でマウンドを降り、リリーフした1年生・服部は5回に3安打を打たれて2点を失ったが、何とか後続を断ち切った。



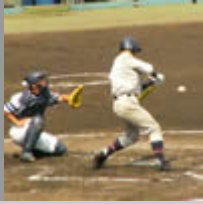
今や立宇治のエースナンバー「4」中野翔



初回2死から左翼線に2塁打を放った3番・鄭



復帰の市川は最初の打席でタイムリー3塁打



続く梅本は鮮やかに三遊間を破った



初戦では無安打の8番・大崎が左中間を豪快に破り5点目



4回から1年生の服部が公式戦で貴重な初登板

7月7日(月) <大会第3日> 2回戦 対鳥羽 (あやべ球場第1試合)

## 中野翔、強打の鳥羽を4安打に!!

●鳥羽 000 030 000 =3

○立命館宇治 012 200 02X =7X

【鳥】徳永・千坂-溝口【立】中野翔-大崎

▼2塁打 森、金子(立)

### 【試合経過】

立命館宇治は序盤から決してフライを上げず、チャンスに徹底して転がして試合を優位に進めた。2回1死満塁のチャンスに9番・寺川の二ゴロで先制すると、2番・中野翔の中前打で2点目を追加。さらに3回には1死2・3塁のから6番・梅本が高いバウンドの1ゴロを放ち加点した。4回には2死2・3塁から3番・鄭が1塁手頭上を越すタイムリーを放ち、序盤で5点のリードとなった。

2点差のまま終盤を迎えた重苦しい雰囲気となりかけた8回には先頭の8番・森が左中間2塁打で出塁すると、1番・金子が2塁手右をゴロで抜くタイムリーで再び勢いを与えた。

公式戦初先発の中野翔は5回に3安打3四球で3点を奪われたが、それ以外は鳥羽の強打線を1安打に封じ込めた。9回完投で被安打4、7四死球、6奪三振。バックも無失策で応えた。



公式戦初先発の中野翔。周囲の不安を払拭した



徹底的に転がして活路を見いだした打線



3番・鄭は2死球3安打で全打席出塁



バックは無失策で中野翔の頑張りに応えた  
 平常授業中のため、スタンドは部員のみ  
 の声援  
 8回に1番・金子が重苦しい雰囲気を一掃した

## 大会登録メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	服部 憲悟	1	榎島	ボーイズ・南山城ドラゴンズ	右	左
2	捕	大崎 将利	3	高針台 (愛知)	シニア・名古屋北	右	右
3	一	梅本 英弥	3	広 陵 (奈良)	ボーイズ・葛城	右	左
4	二	中野 翔太	3	安祥寺	ボーイズ・京都ファイターズ	右	左
5	三	鄭 晋吾	3	寝屋川六 (大阪)	ボーイズ・大阪東淀川	右	両
6	遊	金子 侑司	3	西 院	ボーイズ・京都ライオンズ	右	両
7	左	岡島 悠裕	3	吹田二 (大阪)	ボーイズ・箕面	左	左
8	中	山口 拓也	2	浅香山 (大阪)	ボーイズ・ジュニアホークス	右	右
9	右	寺川 幸佑	3	香住一 (兵庫)	ヤング・但馬BBC	右	左
10	外	市川 怜央	3	四条畷 (大阪)	ボーイズ・大東畷	右	右
11	内	清水 勝貴	3	洛 南	ボーイズ・京都スターズ	右	右
12	捕	森内 幸司	3	報徳学園 (兵庫)	ボーイズ・兵庫尼崎	右	右
13	内	小林 和路	2	精華西	シニア・奈良	右	右
14	内	森 飛鳥	2	久 居 (三重)	シニア・津	右	右
15	外	徳野 純貴	3	和 東	ヤング・京都相楽	右	右
16	投	中野 修	3	有野北 (兵庫)	ボーイズ・兵庫神戸	左	左
17	投	岩見 晋悟	1	久美浜	少年野球・久美浜クラブ	右	右
18	内	南山 晃利	3	稲美北 (兵庫)	ヤング・全播磨	右	左

[硬式野球部 TOP PAGE](#)

# スライド写真で振り返るあのシーン、あの表情

月 日	試合	相手	結果
7月13日 (日)	3回戦	<a href="#">京都翔英</a>	○12-2
7月19日 (土)	準々決勝	<a href="#">北嵯峨</a>	○4-0
7月21日 (月)	準決勝	<a href="#">龍谷大平安</a>	○5-4
7月22日 (火)	決 勝	<a href="#">福知山成美</a>	●2-8

対戦チーム名をクリックしてください。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)^

## 2008年7月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

第90回選手権記念京都大会をスライド写真で振り返る

夏草や兵どもが夢の跡....

(構成作:部長・石川、写真:副部長・寺本)

第90回全国高等学校野球選手権記念京都大会 特集

7月29日

「ゼロ」から野球を教える



決勝戦の夕刻から新チームがスタートして数試合が行われたが、勝ち負けよりも「基本」が理解できていないため、試合後にはホームベース後ろにネットを置き、その真後ろに卯瀧先生が陣取って、大声を張り上げて「ゼロ」から野球を教えている。「サインを見るタイミングは今やあ」「この状況での定位置はそこじゃない!!」「違う方向へカパーリングに走ってるぞ」と、就任以来なかった光景である。3年生がメンバーから大量に抜けたため、ある程度は予想できたが、それでも卯瀧先生は「今まで何も知らなかっただけに、乾燥したスポンジに水を吸わせるようなもの。日に日に吸収は早い」と熱い。

7月23日

スタート...即日、練習試合2試合



決勝戦敗戦翌日、早速練習試合が行われた。いなり以前より組まれていた試合であり、優勝していれば当然お断りしなければならなかったが、卯瀧先生は「新チーム練習は夏のメンバー調整練習と併行して行ってきており、今日がスタート初日ではない」と、2試合行った。決勝戦後も学校での報告会の後にグラウンドに戻り1~2年生だけで練習しており、この日は卯瀧方式で「まず2年生中心の選手起用」となったが、山口拓也新主将のもと、1ヶ月後に迫る秋季大会までにチームがどのように成長するか楽しみである。

7月20日

「普段通りに」...準決勝前日



78校で始まった選手権記念京都大会も残りは4校。しかし春季大会ベスト4でシードされたのだから、ある意味ではここまでは当然といえば当然。この日の練習も部員に「ここまで来た」という安堵感や浮かれた様子もなく、普段通り。今までの試合と同じように前日チェックが行われる。特に変わったところといえば、龍谷大平安の左投手を意識して、立命館大学硬式野球部の先輩たちがグラウンドに駆けつけ、バッティング投手をしてくれたこと。秋季大会の時もそうであったが、これは心強い。



そしてもう一つは翌日の放送に備えてKBS京都が取材に来たこと。グラウンド内で取材カメラが回った。インタビューを受ける卯瀧先生も過去に何度も同じ経験をしてきており、手慣れたものであった。

メンバーは午前中で練習を上がり、明日の試合に備えた。

7月17日

ベスト8で全校応援の気運が高まる



大会も後半になり4年ぶりにベスト8へ進出したとあって、校内の応援もかなり盛り上がってきた。平常授業期間が続くため、吹奏楽とチアの応援が復活するのが準決勝以降。その時には一般生徒の応援も多数見込まれている。また校内の生協購買部にはランニングスコアの速報が張り出され、大会序盤の新聞記事とともに「(骨折した)吉田投手の分まで頑張れ」と熱いメッセージが掲げられている。準々決勝からテレビ中継もあり、「このまま一気に頂点へ」という声があちこちで聞かれるようになった。

7月13日

3回戦は日曜日ということで



今大会は平常授業期間中に行われているため、生徒の応援がままならない。しかし抽選会の時から「3回戦は日曜日なので」というのが合い言葉となり、この日は西京極球場に吹奏楽部やチアリーダー部をはじめ、多くの生徒が応援に駆けつけてくれた。初戦は会議のために応援来れなかった北村校長もこの日は最後まで声援し、試合後には部員に激励の言葉をかけてくださった。次に生徒の応援が動員できるのは準決勝以降。何とかそこまでは、いやそれ以上に勝ち上がらなければならない。

7月2日

厳粛に...。全部員の代表18名に背番号



選手権京都大会の開幕3日前の今日、部員に背番号が手渡された。秋・春とは異なり、6月20日に登録されたメンバーは自チームの初戦までしか変更できない。この日は練習中にもかかわらず、スタッフがネット裏で膝をつき合せて話し合い。3年の主力選手にも意見を求めるなど、例年にならない台所事情となった。夏に向けた強化メンバーは20数名でスタートしたが、最近では20名強となっており、卯瀧先生からは「あくまでも全部員の代表。チーム全員で闘う姿勢がなければならない」と話され、名前が読み上げられた。



## 2008年6月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

6月29日

近畿大会に続いて審判講習会に協力



この日は選手権京都大会を控えた審判講習会。近畿地区審判講習会でもモニター校として協力したのに続き、この日も25名の部員が京都成章とともに参加した。前夜からの大雨でこの日の講習会は球場内ではなく、室内練習場や雨のかからない通路で投球判定や挟殺プレーを中心に行われた。予定より早い目に切り上げる講習内容であったが、講習の合間に解説される審判同士の会話を耳にするだけで、部員には大きな勉強になったはずである。

6月28日

抽選会即日に夏の激励会実施



今年は抽選会から開会式までの期間が1週間しかないため、抽選会の夜に保護者会主催の激励会が行われた。磯部OB会長らを来賓としてお招きし、時間は短かったが、内容の濃い激励会となった。下級生からは3年生にエールが送られ、石川部長からは3年生部員全員の紹介があった。保護者会からは恒例の千羽鶴とお守りが部員に送られ、最後に中野翔太主将が感謝の言葉を述べ、卯瀧監督がお礼と決意を表明し、盛会のうちに終了した。

6月28日

夏は久々のシード校抽選!!



5日から始まる選手権京都大会の抽選会が京都外大森田記念講堂で行われた。今年の夏は4年ぶりにシード校として抽選に挑んだ。ブロック抽選では最も日程が詰まらずに進むAブロックを引き当てたが、肝心の対戦相手がなかなか決まらなかった。残り9校となったところで、ようやく鳥羽が隣を引き当てた。春の2回戦で対戦し、お互い手の内を知り尽くしている相手。春は一時は1-5と引き離されたが、9回に何とか逆転した。里井コーチの母校であり、卯瀧監督もかつて鳥羽を率いて何度も甲子園に出場した。初戦の相手としては相当締めてかからなければならない。

平成20年度

## 春季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

5月12日（日） 3位決定戦 対京都国際（西京極球場）

### 9回の同点劇も束の間....

●立命館宇治 020 000 102=5

○京都国際 013 010 001=6x

【立】吉田、田村-大崎【京】李勇-鄭

▼本塁打 申成、李勇、金英（京）

▼2塁打 金英（京）吉田、鄭、山口（立）



立命館宇治は2回、2四球の走者を送った後、8番・吉田が右中間を破り、2点を先制し、優位に試合を運ぶかに思えた。しかし吉田はその裏、先頭の4番・李勇に左中間にソロ本塁打を打たれて1点差に詰め寄られると、続く3回には簡単に2死をとった後、3・4番に逃げの投球で連続四球で歩かせると、5番・金英に右越えにスリーランを打たれ、あっさり逆転された。5回には1死から3番・申成に右中間に運ばれ、前半だけでクリンアップに3発放り込まれた。

追う立場になった立命館宇治は7回には連続ヒットの後、相手失策で1点を返し、最終回には2四球の走者を送った後、4番・山口が3塁線を破り、何とか同点に追いついた。

しかし7回から吉田に代わって登板した田村は経験不足を露呈し、最終回裏に2四死球から何とか2死までこぎつけたが、1-3から投じた一球を右中間へ運ばれ、サヨナラ敗戦となった。

秋のベスト8からチーム成績はワンランク上がったが、上位での戦いで明らかになった弱点を残し1ヶ月半でどう克服するかが今後の大きなポイントとなった。

※写真は9回同点2塁打を放った山口拓也（2年）

5月11日（日） 準決勝 対福知山成美（西京極球場）

### 序盤の唯一の乱れに防戦展開!!

●立命館宇治 000 001 001=2

○福知山成美 060 000 00x=6x

【立】吉田-大崎【福】植田-福本

▼2塁打 椎葉、福本（福）山口（立）



2次戦2試合を無失策で戦い抜いた立命館宇治は、2回6安打1四球を集中され、福知山成美にビッグイニング6点を献上し、早々と勝負を決められた。外野手の目測誤りや後逸あり、スローイングミスありと記録上の失策は1であったが、無失点2死カウント2-2からの手痛い四球といい、あまりにも痛いイニングと

なってしまった。

攻撃はサウスボー植田のストレートと切れの良いスライダーに前半は沈黙したが、後半は次第にとらえ始め、6回には金子が、9回には大崎が犠飛を上げて得点したが、相手にダメージを与えるには至らなかった。

結局、立命館宇治は福知山成美と同じくトータルで8安打を浴びせながら、完敗してしまった。

この結果、立命館宇治は明日12日、第1試合で京都国際と3位決定戦を戦うこととなった。

5月5日 (月) 準々決勝 対南 丹 (太陽が丘球場)

## チャンスに着実に加点

●南 丹 000 010 000=1  
○立命館宇治 201 010 02x=6x

【南】藤田-森景

【立】吉田-大崎

▼3塁打 山口、鄭 (立)

▼2塁打 金子、岡島、寺川 (立)



立命館宇治は初回、2四球と犠牲バントで1死2・3塁のチャンスをつかむと、続く4番・山口が中前へ弾き返し2点を先制。3回には2死から、3番・金子が右前打で出塁すると、またも山口が左中間最深部を直撃する3塁打を放ち、加点した。1回戦で西城陽の強力打線を封じた南丹のエース藤田は丁寧な投球で凌いだが、5回には2番・鄭の3塁打を金子のタイムリーで返し、8回には長短3安打を集中して2点を取りダメを押しした。

先発・吉田は1回戦の京都すばる戦よりはスピード制球ともに甘く、被安打5ながら5四球を献上したが、6回以降は無安打に封じ込めた。

写真は3打点を記録した4番・山口拓也 (2年)

5月3日 (土) 1回戦 対京都すばる (太陽が丘球場)

## 吉田奨、渾身の投球!!

○立命館宇治 220 001 110=7  
●京都すばる 000 000 020=2

【立】吉田-大崎

【京】大野-土屋

- ▼本塁打 小林（京）
- ▼3塁打 金子、鄭（立）
- ▼2塁打 梅本2（立）



初回、相手失策と6番・梅本の一塁線を破る2塁打で2点を先制した立命館宇治は、続く2回には2死2・3塁から3番・金子の中越3塁打で2点を追加し、序盤から試合を優位に進めた。6回には足技で相手守備を攪乱し、7回には梅本のこの日2本目の2塁打で、8回には2番・鄭が鮮やかに右中間を破り、1点ずつを追加した。

「大野が出てきたら、うちの左打者が 鍵を握る」という通り、7安打は全て左打者であった。

1次戦初戦の鳥羽戦で味方の大逆転に助けられたエース吉田奨は、序盤の得点もあり、渾身の投球を展開。5回まで被安打1と好投した。コールドゲーム成立寸前の8回2死から本塁打を浴びたが、バックも無失策で吉田の投球に応えた。

※写真は2本の2塁打を放った梅本英弥（3年）

## 1次戦

4月20日（日） 決 勝 対南京都 （立命館宇治G）

### 不完全燃焼ながらもコールド

- 立命館宇治 211 040 1=9
- 南 京 都 000 100 0=1 （7回コールドゲーム）
- 【立】 田村-大崎
- 【南】 宮本、田村-宇野、西川
- ▼3塁打 梅本（立）
- ▼2塁打 鄭、金子、山口2（立）



初回、4番・山口のタイムリーと暴投で2点を先制した立命館宇治は、2回には2番・鄭の左越2塁打、3回には6番・梅本のタイムリーで加点した。1点を返された5回には長短6安打を集中し、4点を加え大勢を決めた。この日は7回で長短18安打を放ったが、相手野手の動きに助けられた感もあり、まだまだ不完全燃焼。

公式戦初先発の田村は、練習試合のダブルヘッダーの2試合目を任されるケースが多く、トーナメントの公式戦は初登板。制球、スピードとも甘く、被安打5ながら、6四死球と荒れ、実力の半分も発揮できない練習不足と精神的幼さを示した。

※写真は公式戦初先発の田村投手（2年）

4月13日（日） 2回戦 対鳥 羽 （立命館宇治G）

# 序盤の大量失点取り返し逆転

○立命館宇治 000 111 022=7

●鳥羽 103 200 000=6

【立】吉田-大崎

【鳥】千坂、徳永、小森-小林

▼本塁打 山口（立）

▼3塁打 金子（立） 廣瀬（鳥）

▼2塁打 寺川、大崎（立） 廣瀬、頭根（鳥）



1点を追う立命館宇治は最終回、先頭の3番・金子が鮮やかに左中間を破る3塁打の後、暴投で同点。1死から2連打の後、8番・吉田が何とか右前へ運んで逆転した。

先発・吉田はこれまでの練習試合とは別人のような投球で、甘く入ったストレートを痛打され、4回までで8安打で6失点された。

一時は5点差の劣勢に立たされた打線は、「中盤から1点ずつ返していく」という監督の指示通り、4回には5番・岡島のタイムリー、5回には相手守備の乱れから、6回には6番・梅本の犠牲フライで1点ずつ返して終盤に望みをつないだ。8回には先頭の4番・山口の本塁打と吉田のタイムリーで1点差まで詰め寄った。

吉田は5回以降は丁寧な投球で、前半めった打ちされた鳥羽打線を1安打に封じ込めた。

打線は鳥羽の3投手から18安打放ったが、吉田の投球といい、前半戦のチャンスの拙攻といい、公式戦の雰囲気では弱点も露呈した。

## 1次戦メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	吉田 奨	3	山崎東 (兵庫)	ボーイズ・一宮キングボーイズ	右	右
2	捕	大崎 将利	3	高針台 (愛知)	シニア・名古屋北	右	右
3	一	梅本 英弥	3	広 陵 (奈良)	ボーイズ・葛城	右	左
4	二	中野 翔太	3	安祥寺	ボーイズ・京都ファイターズ	右	左
5	三	鄭 晋吾	3	寝屋川六 (大阪)	ボーイズ・大阪東淀川	右	両
6	遊	金子 侑司	3	西 院	ボーイズ・京都ライオンズ	右	両
7	左	岡島 悠裕	3	吹田二 (大阪)	ボーイズ・箕面	左	左
8	中	山口 拓也	2	浅香山 (大阪)	ボーイズ・ジュニアホークス	右	右
9	右	寺川 幸佑	3	香住一 (兵庫)	ヤング・但馬BBC	右	左
10	外	徳野 純貴	3	和 東	ヤング・京都相楽	右	右
11	内	清水 勝貴	3	洛 南	ボーイズ・京都スターズ	右	右
12	投	田村 知一	2	市 岡 (大阪)	シニア・大正	右	右
13	捕	森内 幸司	3	報徳学園 (兵庫)	ボーイズ・兵庫尼崎	右	右
14	内	小林 和路	2	精華西	シニア・奈良	右	右

15	内	森 飛鳥	2	久 居 (三重)	シニア・津	右	右
16	外	藤井 直也	2	桜 丘 (大阪)	ボーイズ・交野	右	右
17	内	南山 晃利	3	稲美北 (兵庫)	ヤング・全播磨	右	左
18	投	中野 修	3	有野北 (兵庫)	ボーイズ・兵庫神戸	左	左

[硬式野球部 TOP PAGE](#)へ



## 2008年5月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

平成20年度 春季京都府高等学校野球大会 速報

5月28日

関西学生野球で先輩たちが活躍



春の関西学生野球では最終週の立同戦で勝ち点を逃したため、惜しくも2季ぶりの優勝を逃した大学硬式野球部だが、このリーグ戦はかつてないほど多くのOBがベンチ入りした。副主将の藤原大輔（4回生）は勿論、今春から上内辰哉（3回生）宮本剛司（2回生）が三遊間を獲った。前半戦は外野手で稲川佳佑（4回生）もレギュラーとして活躍し、投手を除く8ポジションのうち4つをOBが占める時期もあった。また仲濱聖人（4回生）も試合に出場し、屋敷悠（3回生）もベンチ入りした。主務として活躍する吉岡健博、学生コーチの竹内裕喜（ともに4回生）も含めて実に大勢が戦力となった。この中から藤原大輔と上内辰哉がベストナインに選出され、先輩たちの活躍を祝福するとともに後輩たち誇りに思いたい。

※ 写真は高校1年時に近畿大会に出場した上内先輩

5月25日

近畿大会運営補助員として協力



本来なら春季大会に勝ち抜き、地元京都で行われる近畿大会に出場したかったところだが、この日は大会の運営補助員として18名がスムーズな大会運営に協力した。特にこの日は未明まで雨が降り、グラウンド整備のために試合開始時を遅らせるなどの配慮がされたため、18名とこの日の第2試合に登場する龍谷大平安の部員と、朝から球場の水取り作業から始まった。大会が始まると、券売や本部の電話対応係、SBO担当など決められた役割をこなした。チームを離れての活動となったが、この日登場した大阪桐蔭、智弁和歌山など他府県の競合の野球は、彼らの目にどのように映ったか。

5月18日

Pair Rits保護者会定時委員総会を実施





18日お昼過ぎからグラント横の生徒寮において、硬式野球部保護者会が行われた。この保護者会から新入部員の保護者も参加。部長から今後の予定や前年度クラブ会計の決算報告があり、卯瀧先生からは現在のクラブの進捗状況について報告があった。特に今年度は選手権京都大会が例年より一週間早いため、昨年より早く強化練習に入ったことや、そのために多くの3年生に理解と協力を求めなければならなかったことに対して説明があった。また午後から行われた前橋商との練習試合には多くの保護者がバックネット裏に駆けつけ、引き続き応援をした。

5月17日

近畿大会審判講習会に協力校として参加



5月24日から西京極球場で行われる春季近畿大会の審判講習会に、25名の部員が参加した。半年以上前からこの講習会の協力は決まっていたが、参加したのは1～2年生の25名。まだ高校球児として一度も西京極球場でのプレー経験のない部員ばかりで、山城・北嵯峨の部員とともに目一杯西京極球場で動き回った。指導審判員の指示のもと、時には走者として、時には野手として、時には好プレーを、そして時には珍プレーを要求されたが、スムーズに動けた。もしかして一番疲れたのは要求通りのコースにノックを打ち続けた里井コーチだったかもしれない。

5月15日

サンガとの直接対決制し、王座死守!!



本日は高校体育祭。硬式野球部にとって最も力の入るのが連続優勝を果たしているクラブ対抗リレーである。近年は2位以下を大きく引き離すぶっちぎり優勝が続いたが、今年から3学年揃った京都サンガが出場の名乗りを上げ、俄然対決ムードは高まった。普段は机を並べて勉強する同志だが、この対決だけは負けられない。硬式野球部は春の公式戦の1～4番を起用し、鄭～山口～中野翔～金子と盤石の体制で挑み、予選リレーを流して突破。決勝ではやはり京都サンガとの対決となったが、第一走者から終始先頭を奪い、4年連続優勝を果たした。校内最速を決める韋駄天杯では1位をサンガに奪われ、2～3位が硬式野球部員がしめる結果となった。

5月12日

やはり....即日「強化練習期」開始!!



春季大会の後、午後4時にグラウンドに到着した部員は即練習開始。卯瀧先生は即日「強化練習期」を開始した。今年は夏の選手権京都大会の開催が例年より1週早く、「もう夏までに時間がない」とメンバーを絞り込んでのディフェンス強化は昨年に続いてのもの。ノッカーは多人数が必要で、チーム事情や夏までの期間を考え、春季大会でメンバー外であった3年生に「チームのためにノッカーに徹してくれないか」とお願いし、この日数名の新ノッカーが誕生した。「できればもう一度チャンスを」という思いもあり、複雑な心境は重々承知。それだけにこのノックは一球たりともおろそかにできない。

5月12日

平日開催のため、大会補助員も兼ねて



春季大会最終日は週末の雨天順延のため、平日開催となった。平日開催となれば大会役員はもちろん、審判員の手配も平日とは比べものにならないぐにいの大変さである。チケット販売や検札、本部の電話当番は当番校の部員が行うが、平日のため「公欠」もままならない。そこでこの日は理事校である龍谷大平安と立命館宇治が分担することになった。3位決定戦では龍谷大平安が、決勝戦では立命館宇治が当番校となり、大会の運営を手伝った。立命館宇治は近畿大会でも審判講習会のモニターや大会運営補助員を務める予定である。

5月11日

敗戦後数分で撤収、1時間後に練習再開



卯瀧先生の敗戦後の撤収指示は早い。スタンドへ挨拶を済ませるとすぐに荷物をまとめ、ベンチや更衣室の清掃を済ませ、数分後にはバスに乗り込んだ。取材に訪れた新聞記者も「えっ!?もういないの??」と驚くほど。もちろん目的は「グラウンドに戻って反省点を克服する練習をするため」である。今大会に始まったことではないが、本部の大会役員も「当然、帰って練習か?? 相変わらず行動が早いな」ともうすっかり卯瀧先生の敗戦後の行動の早さはお馴染みのようである。

5月1日

長身サウスポー対策!? 朝礼台の上から



1次戦が終わり、2次戦初戦の相手は京都すばると決まった。左右どちらが先発してくるか全く予想がつかないため、特に左打者の多い打線はその対策が急務の課題。「とにかくイヤと言うほど左を打たせる」と卯瀧先生はフリーバッティングを1箇所増やし、左は長身のサウスポーもいるため、写真のようにピッチングマシンを朝礼台の上に上げ、上からの変化球に目を慣れさせた。「あごを上げるな。目でしっかりボールを追え」と注文は厳しいが、その成果は3日に試されることになる。

## 2008年4月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

4月20日

北村校長の心強い応援と激励



「鳥羽の試合は危なかったんやなあ。よお逆転したなあ」といかにも見に来れなかったことが残念そうだった北村校長。卯瀧先生の監督就任と同時に校長となり、公式戦はほぼ全試合観戦いただいている。この日も試合前半から保護者と混じって声援。試合後はメンバー選手に激励の言葉をかけてくださった。野球に限らず、色々なクラブの公式試合にはこまめに足を運び、声をかけてくださっているが、校長のグラウンドでの観戦の感想はいつも「やっぱりこのグラウンドには外野の後方に大きなスコアボードが必要やねえ。見ている人はわからへんもんねえ」。そうなんです!! お願いします!! (部員一同より)

4月6日

貢献度表と部員投票結果が公開



部室の入り口に張り出された2枚の表。ひとつはこの春から採用している「チーム貢献度」を一覧にしたもの。打数・安打だけでなく、好走塁・進塁打も査定的重要ポイントとなり、練習試合の全てのデータが入力されている。ふたつめはいよいよ迫った春季大会のメンバー投票。練習試合の結果などから2~3年生が「ベンチ入りにふさわしい18名」を投票し、その結果が公開される。卯瀧先生は「部員の見ると私の思いが大きく異なり、これは意外という結果になることはまずない」と堂々と結果を公表し、それを参考に春のベンチ入りメンバーを選出する。

4月6日

中京大中京に連勝し、春季大会へ



4日の天理線では9回押し出し四球のサヨナラ負けとなり、本日の中京大中京が春季大会までの最終戦。新チーム結成当時の親善試合では7-0のコールドゲームで敗れているだけに、気合い充分で乗り込んだ。第1試合はともにエース同士の投げ合いとなり、9回2死から連打で逆転し6-3、また第2試合では3-6の劣勢から9回裏に逆転満塁サヨナラ本塁打が飛び出して、連勝した。選抜出場校の名門と互角に戦えたことは良い意味での自身になるはず。これで3月8日

から始まった春のオープン戦は31試合26勝3敗2分となった。いよいよ来週から春季大会である。

4月4日

春オープン戦の締めは選抜シリーズで



3月8日から始まった今シーズンのオープン戦も雨で2日流れたが、ほぼ順調に消化し、現在23勝2敗2分だが、果たして本当にチーム力がアップしているのかどうかはまだまだ未知数。そこで春休み終盤に組まれたのが、今春のセンバツに出場したチームとの練習試合。この日は一昨日甲子園から戻ったばかりの奈良の天理高校を迎えた。一球一イニングで攻防が左右される緊迫した展開となり。勉強となることが多かった。日曜日にはアウェイで夏に続いて中京大中京の胸を借りることになっており、このシリーズで見えた弱点を修正し、春季大会に挑む。

## 2008年3月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

3月26日

洛南交流試合に連勝し、緒方杯を



今年度から「本格的球場使用を」と太陽が丘球場で行われることになった洛南交流試合（順位決定戦）が、この日各ブロックの1位校4チームが集まって行われた。試合に出場できるのは18名だが、アップやノックなどはなるべく多くの部員が球場の雰囲気味わえるよう配慮されて行われた。第1試合（準決勝）では昨秋の初戦で延長戦を戦った西城陽と対戦し、ともに2年生投手の好投で引き締まった展開となったが、後半に集中打を發揮して7-4で勝ち、第3試合（決勝）では京都翔英を破った久御山と対戦。サウスポー中野修が新チーム以降、今チーム初の完封で締め、実質1位校に手渡される緒方杯を手にした。

3月25日

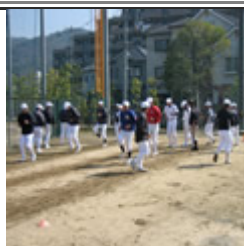
寮生の夕食は「おふくろの味」で



長期休暇の閉寮期間は寮で食事が提供されないため、昨夏までは在寮部員は京阪三室戸駅前の「めりけん亭」で長らくお世話になってきた。しかし昨夏でお店を閉められたため、年末からはグラントセンター後方の「ふる里」というお店にお世話になっている。お店をひとりで切り盛りするお母さんが「困っているなら、うちの店で良ければ」と、快く大食漢の夕食提供を引き受けてくださった。「うちは若者向けの油ものは提供できないかもしれないよ。おふくろの味が中心だから」と言われたが、「それがあの子たちには必要なんです」と部長はお店の好意に甘えることにした。

3月25日

18名の新生が練習参加!!



今月、中学を卒業し、来月入学予定の新生18名がこの日から練習に参加した。スポーツ推薦合格者や内部進学者が中心で、連盟規定により、保護者の承諾書や保険加入の手続きを済ませ、高校野球生活をスタートした。いずれも将来の野球部の中心選手と期待される部員ばかりだが、まずはウォーミングアップの基本から。この日は変則ダブルの練習試合のため、外野フェンス奥で怪我をしている上級



生に「立命館宇治方式のフォーミングアップ」を教えてもらった。

3月24日

お見事!! 学年年間総合成績第10位



24日に終業式が行われ、式に先立って恒例の学年成績優秀者の発表が行われた。年度末のため、今回の発表は学年最終のものであり、年間総合成績となる。2年生では全400名の中で10位に清水勝貴が入り、学年主任からの発表と同時に仲間から大きな拍手を受けた。早朝や居残り練習を積極的に行いながら、今回の学業成績での上位表彰は多くの部員の手本となる。また新チーム以降、兼任主務もこなし、他の部員にはない雑務もこなしている頑張り屋である。

3月16日

万が一…。遠征にクラブ用AEDを



07年12月15日のニュースでもお知らせした硬式野球部用AEDが、今回の和歌山県遠征で初めて携行された。高校は今年度各クラブの遠征用にAEDを確保しており、合宿や遠征時にはAEDを携行するように奨励している。万が一にも使用することになれば大変な事態だが、不測の事故はいつ起こるかわからない。今回の遠征ではスタッフルームに常設してあるAEDを引率教員が持ち出し、部員に預けることなく、引率教員が管理携行した。

3月16日

和歌山県で中京親善練習試合に参加



15日から一泊で和歌山県遠征を実施し、地元チームなどと4試合を行った。けが人をのぞく39名が参加。毎年、全国に指導する中京大学OBが年に一度和歌山に集まり、親善練習試合を行っているもので、夏の愛知に続いての初参加となった。今回は選抜に出場する中京大中京（愛知県）北大津（滋賀県）も参加しており、京都からは立命館宇治と花園、京都すばるが参加した。多くのチームが世話役である市和歌山商の手配で、駅前のホテルに宿泊したため、試合だけでなく、ホテル生活でも他チームから学ぶところが多かった。試合はまだまだ冬の成果をメンバー入れ替えながら試している段階だが、確実な成長を示す戦力も出てきており、今後の楽しみである。

3月11日

3年生15名が後輩に見送られ巣立つ



11日はそれまでの寒さが嘘のように晴れ渡り、気温も上昇。格好の青空の下、体育館で3年生部員15名が卒業式を迎えた。今年の3年生は在部中に監督交替があり、その時期には自分たちで創意工夫して授業しなければならないこともあった。大学硬式野球部の練習に参加しているのは3名だが、その他の部員も大学で準硬式など何らかの形で野球を続けていきたいと意思表示している。この日は式後に保護者も全員揃って部長を訪ね、記念の横断幕をいただくなど、恐縮の限りであった。卒業する3年生部員のこれからの活躍を心から祈りたい。

3月8日

いかにも初戦!! 両チーム合同ノック



連盟規定により3月第一土日から、練習試合が解禁となった。この日は半年以上前から決まっていた三重県の高校。朝から青空に恵まれ、いよいよシーズン到来と気合いを入れたところだが、部員は昨日まで学年末テストで、まともな練習はできていない。勿論、勝敗にこだわる段階ではなく、色々と新しいことも試してみたいところ。試合前のノックでは相手チームの要望もあり、両チームでの合同ノックとなった。また試合後は相手部員から卯瀧先生や部員に「なぜあの場面でそういう攻め方をされたのか。なぜあの位置に守っていたのか」という質問がなされ、相手のどん欲さはこちらにも得るものがあった。

## 2008年2月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

2月21日

文武両道の証!! 外村望が英語で活躍



「英語でわからないところがあれば外村に教えてもらえ」というのが昨今の部員の間では当たり前になっている。まだ1年生だが、中学の時から両親に徹底的に鍛えられたという英語は、帰国生徒かと思ってしまうほど。この日は1年生の「第9回英語暗唱大会」で、学年から選ばれたファイナリスト10名のうちの一人としてステージに上がった。英語のイベントでファイナリストとなるのは現大学4年生の黒田巖域先輩が2年の英語スピーチコンテストで優勝して以来のこと。普段からクラブで鍛えた喉で滑舌よくスピーチを披露した外村だが、現在は独学でドイツ語を勉強中で、「自己紹介程度ならドイツ語でできます」というのだから、大したものである。

2月14日

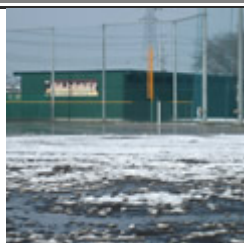
新戦力17名が入部説明会に参加



毎年恒例になった合格発表後の入部説明会が、今年も実施された。スポーツ推薦（推薦B）合格者を中心に17名が参加。中にはインターネットで毎年この日に説明会があることを知っており、飛び込みで参加し、入部に名乗りを上げた合格者もいた。卯瀧先生から合格のお祝いとともに「大学へ通じるこの高校に合格したことで安心しているようでは野球でさらなる上は目指せない。どん欲に頑張ってください」と挨拶され、その後部長から入部に際しても心構えや手続きについて説明がなされた。一日も早く高校野球に触れてみたいと目を輝かせる合格者だが、練習参加は3月25日からとなる。

2月10日

もしかしたらこれが一番弱いかも....



高校入試A日程B日程実施のため、部員は3連休となった初日、グラウンドは2年ぶりの大雪に見舞われた。それでも40名全員が工夫すれば練習できる室内環境が整っているのは有り難いが、水はけは抜群良さを誇るグラウンドは翌日も使用不可能になった。大雨でも当日の朝に上がれば、午後からは使用可能になるグラウンドだが、雪解けの今日は完全

にお手上げ。シーズン中にこの状態で使用不可能になることは考えられないが、晴天の日に一切グラウンドに立ち入れないのは珍しい光景で、部員は室内と外周道路でたっぷり汗をかいた。

## 2008年1月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

1月23日

監督による全部員の面談を実施



卯瀧先生が年明けからは是非実施したいと公言していた部員との個人面談が今週から始まった。スタッフルームに上級生から一人ずつ呼ばれ、約10数分。「野球人としての自己分析」「対チームメイト」は勿論、クラブ運営や選手起用に対する疑問もこれを機会に全て吐露させる。また監督からはその部員に対する期待が語られ、激励もされる。加えて2年生部員には大学へ行って硬式野球を続けるのかの意志確認も行われている。

「我々が見えていない部分が色々とわかって面白いし、意外な側面を見せる子もいる。こういう機会は大切」と部員の本音を巧みに聞き出す話術が冴えている。

※写真は昨夏の選手権京都大会でのもの

1月14日

熱い、美味しい!! 鏡開きでお餅をいただく...



暦の上での鏡開きは11日だったが、スタッフ稼働の都合上、14日に鏡開きが行われ、全部員で昼食時にお餅をいただいた。保護者会に年末に準備いただき部室に飾られていた鏡餅を割り、朝から部長が大きなヤカンふたつにお湯を沸かし、練習の頃合いを見計らってホットプレート上で餅を焼いた。昼食のために部室に戻った部員は準備されていたカップラーメンに餅を入れて入れ、「熱い!! 美味しい!!」と声を上げて平らげた。この日は朝から気温も低かったが、この昼食で胃袋は一気に温まった。